

国語 第3学年 冬のくらし

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、冬に関わる言葉を、自分が見聞きした様子と結び付けて使う。言葉を集めるだけで終えず、その言葉で何が伝わるかを確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「冬のくらし」 教材名「冬のくらし」

2 単元の目標

身近な季節を表す言葉を知り、様子に合う語を文の中で使える。書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確認められる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近な季節を表す言葉を知り、様子に合う語を文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確認めっている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

冬に関わる言葉を、自分が見聞きした様子と結び付けて使う。言葉を集めるだけで終えず、その言葉で何が伝わるかを確かめる。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)エを加えている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。冬は空気の冷たさや身近な人の装いなど、その場所で確かめられる様子を取り上げる。雪や霜が必ず見られるとは決めない。同じ様子を表す語を比べ、近い意味でもどの語が観察した様子に合うかを考える。おおむね満足できる状況は、書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確認められているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○季節の様子を観察して語を集める。様子に合う語を選んで短い文章にする。評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時（本時）：○読み合って思い浮かぶ様子を比べる。語を直した理由を伝える。評価：知①・思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2／2）

(1) 本時の目標

書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確認められる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「冬に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」

【めあて】冬に関わる言葉を、自分が見聞きした様子と結び付けて使う。

予想される児童の反応：・同じ季節でも見付けた物が違う。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「冬に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」

学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。冬は空気の冷たさや身近な人の装いなど、その場所で確かめられる様子を取り上げる。雪や霜が必ず見られるとは決めない。同じ様子を表す語を比べ、近い意味でもどの語が観察した様子に合うかを考える。

自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。

予想される児童の反応：・同じ季節でも見付けた物が違う。

・色だけでなく音や手触りも知らせたい。

・似た言葉でも想像する様子が違う。

指導上の留意点：学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。冬は空気の冷たさや身近な人の装いなど、その場所で確かめられる様子を取り上げる。雪や霜が必ず見られるとは決めない。同じ様子を表す語を比べ、近い意味でもどの語が観察した様子に合うかを考える。

想定するつまづき：季節の固定したイメージだけを写す、見ていない風景を見たこととして書く。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確認している。(発言と学習記録)

知①身近な季節を表す言葉を知り、様子に合う語を文の中で使っている。([知識及び技能](1)オ)(使った言葉・音読や表記の確認)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・似た言葉でも想像する様子が違う。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①(学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端に教材名とめあて、その左に問い「冬に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

